

麻疹（はしか）患者の発生について

以下のとおり、都内で麻疹患者（検査診断例）の発生がありました。

管轄保健所において疫学調査を実施し、接触者の健康観察を実施しています。

また、患者の行動歴を確認したところ、周囲に感染させる可能性のある時期に下記の施設において不特定多数の方と接触した可能性があることが判明しましたのでお知らせします。

施設へのお問い合わせは御遠慮ください。

【患者の概要】

PCR検査 結果判明日	性別	年齢	症状	海外 渡航歴	ワクチン 接種歴	発病日
9月12日	男性	30代	発熱、結膜充血、麻疹	無	不明	9月3日

【患者が利用し、不特定多数の方と接触した可能性のある施設】

江東運転免許試験場

9月2日（水曜日）10時00分から12時00分頃

上記日時に当該施設を利用された方は、利用後、21日間は、麻疹の発症の可能性を考慮し、健康状態に注意し、麻疹を疑う症状（発熱、発疹、咳、鼻水、目の充血等）が現れた場合は、必ず事前に医療機関に連絡し、麻疹の疑いがあることを伝えてください。

また、受診の際は公共交通機関の利用を控えて医療機関の指示に従って受診してください。

本情報提供は、感染症の拡大防止のために行うものですので、患者及び患者家族等の個人情報については、プライバシー保護の観点から本人等が特定されることのないよう、格段の御配慮をお願いいたします。

＜都民の皆様へ＞

- 麻しんは感染力がきわめて強い感染症で、その感染力はインフルエンザの約10倍といわれています。

感染すると約10～12日の潜伏期間の後に発熱や咳、鼻水といった風邪のような症状が現れ、2～3日熱が続いた後、39℃以上の高熱と発疹が出現します。発症前日から周囲への感染力が生じると言われています。

(参考) 麻しんとインフルエンザの感染力の比較

感染症の種類	基本再生産数※
麻しん	12～18
インフルエンザ	1.2～2

出典：第103回厚生科学審議会感染症部会資料（厚生労働省）

※基本再生産数：全員がその感染症に対する免疫をもっていないと仮定して、1人の感染者が何人の人にうつしてしまうか

- **麻しんは予防接種で防げる病気であり、ワクチン接種は個人でできる有効な予防方法です。**

麻しんの定期予防接種（第1期：1歳児、第2期：小学校就学前の1年間）をまだ受けていない方は、かかりつけ医に相談し、早めに予防接種を受けましょう。

手洗いやマスクだけでは、麻しんを予防することはできません。

ワクチン接種によって体に免疫の備えができていると、ウイルスを早期に抑えこむことで、発症を防いだり（発症予防）、麻しんにかかったとしても症状が軽く、発熱等の症状の強さ、肺炎や脳炎といった重い合併症のリスクを下げたり（重症化予防）することができます。

- 麻しんは昨年から国内での報告数が増加しており、海外渡航歴のない場合も感染が確認されています。体調が悪い場合、特に発熱している方は外出、移動、人に会うことを控え、自宅等で療養してください。

- 海外に渡航し、帰国後3週間以内に発熱や発疹などの麻しんを疑う症状がある場合は、かかりつけ医または医療機関にまず電話で相談してください。受診の際は、必ず事前に受診先医療機関に海外渡航歴及び麻しんの疑いがあることを連絡の上、公共交通機関の利用を控えて、医療機関の指示に従って受診してください。

(麻しんに関する基礎知識や予防接種及び相談について、詳細はこちら➡)



(参考) 厚生労働省リーフレット

【出国前】

海外へ渡航される方へ

「麻しん（はしか）」は 世界で流行している感染症です。



麻しん報告数上位10の国々

国	報告数
パキスタン	42,174
インド	26,607
イエメン	14,521
メキシコ	12,495
パキスタン	11,037
カメルーン	9,653
ガブラスタン	7,730
グアテマラ	6,832
アンゴラ	6,815
スーダン	5,766

日本国内で届出された麻しん症例の推定感染地域

- インドネシア(15例)
- ニュージーランド(7例)
- インド(4例)
- パキスタン(4例)
- 台湾(2例)
- アメリカ合衆国(1例)
- イギリス(1例)
- シンガポール(1例)
- パプアニューギニア(1例)
- フィリピン(1例)
- マレーシア(1例)
- モンゴリア(1例)
- 不明感染(1例)
- その他

WHO(世界保健機関) 麻しん報告数 (2025年12月～2026年5月)

麻しんは、予防接種が1～2回接種により予防できます。

海外へ行く前に

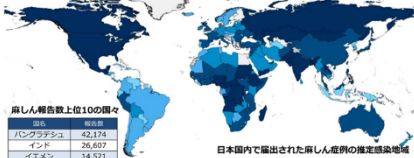
- ✓ 麻しんの予防接種歴を母子手帳などで確認しましょう
- ✓ 定期接種を受けていない方は、接種を検討してください

厚生労働省 感染症対策課 2026/8/12作成

【帰国後】

海外から帰国された方へ

帰国後2週間程度は 麻しん 発症の可能性を考慮し 健康状態に注意してください。



麻しん報告数上位10の国々

国	報告数
パキスタン	42,174
インド	26,607
イエメン	14,521
メキシコ	12,495
パキスタン	11,037
カメルーン	9,653
ガブラスタン	7,730
グアテマラ	6,832
アンゴラ	6,815
スーダン	5,766

日本国内で届出された麻しん症例の推定感染地域

- インドネシア(15例)
- ニュージーランド(7例)
- インド(4例)
- パキスタン(4例)
- 台湾(2例)
- アメリカ合衆国(1例)
- イギリス(1例)
- シンガポール(1例)
- パプアニューギニア(1例)
- フィリピン(1例)
- マレーシア(1例)
- モンゴリア(1例)
- 不明感染(1例)
- その他

WHO(世界保健機関) 麻しん報告数 (2025年12月～2026年5月)

麻しんは、予防接種が1～2回接種により予防できます。

帰国後2週間程度は

- ✓ 高熱や全身の発しん、せき、鼻水、目の充血などの症状に注意しましょう

厚生労働省 感染症対策課 2026/8/12作成

【問合せ先】

○患者発生に関すること

保健医療局感染症対策部防疫課防疫担当 電話 03-5320-4088

○検査の技術的部分に関すること

東京都健康安全研究センター微生物部 電話 03-3363-3231

(参考) 麻しん（はしか）とは

1 麻しんとは

麻しんは、麻しんウイルスによる感染症であり、**感染症法上の五類感染症**です。

2015年に世界保健機関西太平洋事務局より日本は麻疹排除状態であると認定され、近年の国内における麻しんの発生は輸入症例を発端とするものです。

2 原因と感染経路

病原体は、麻しんウイルスです。**空気感染が主たる感染経路**ですが、その他に、患者の咳やくしゃみに含まれるウイルスを吸い込むことによる**飛まつ感染**、およびウイルスが付着した手で口や鼻に触れることによる**接触感染**も発生します。

発症した人が**周囲に感染させる期間は、症状が出現する1日前から解熱後3日くらいまで**とされています。なお、**感染力が最も強いのは発疹出現前の期間**です。

3 症状

感染力はきわめて強く、**麻しんに対する免疫を持っていない人が、感染している人に接すると、ほぼ100%の人が感染**します。感染しても発症しない不顕性感染はなく、**感染した全例で発症**します。典型的には、約10～12日間の潜伏期間の後、38℃程度の発熱及び風邪症状が2～4日続き、その後39℃以上の高熱とともに全身の発疹が出現します。主な症状は、発熱・発疹の他、咳、鼻水、目の充血などです。

また、**合併症として、肺炎、中耳炎、稀に、脳炎、失明等**があり、肺炎や脳炎は、重症化すると死亡することもあります。**死亡する割合は、先進国で1,000人に1人**とされています。一度感染して発症すると、ほぼ生涯にわたって免疫が持続すると言われています。

4 治療

特別な治療法は無く対症療法が行われます。感染初期であれば、緊急ワクチン・免疫グロブリンの投与により発症を防止できる可能性もあります。

5 予防のポイント

有効な予防法は、麻しん含有ワクチン接種です。接種することによって、**95%程度の人がウイルスに対する免疫を獲得することができると**されています。また、2回の接種を受けることでさらに多くの方が免疫を獲得することができます。

予防接種法に基づく**定期予防接種が計2回（1回目：1歳～2歳未満 2回目：小学校入学前の1年間）**行われていますので、対象者の方でまだ接種が済んでいない場合は早めの接種をお願いいたします。

令和6年度接種率 第1期（1歳児）：94.5%

第2期（小学校就学前の1年間）：90.4%

(参考) 都内における麻しん患者発生状況 (2026年の数値は随時更新)

	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年	2026年※
東京都	23	124	2	0	0	10	10	34	271
全国	279	744	10	6	6	28	45	265	552

※東京都の2026年は9月17日までの届出数（速報値）

※全国の2026年は第36週（2026年8月31日～9月6日）までの累積速報値